

晴れ渡った秋空のもと

# 水土里ウォークinかつやまを開催

平成20年10月18日(土)に、勝山市において「水土里ウォーク in かつやま」を開催しました。

当日はさわやかな秋晴れに恵まれ、絶好のウォーキング日和となりました。

第5回目となる今回は、弁天桜で有名な勝山市の九頭竜川河川敷にある弁天緑地公園をスタートし、市内の農村や勝山市の農業を支える“勝山大用水”、九頭竜川右岸に伸びる河岸段丘“七里壁”などを巡りながら歩き、5km先のゴール地点の勝山城をめざすコース設定で、県内各地から、遠くは石川県のからの参加もあり、261名が参加する盛大なウォーキング大会となりました。

## 【開会式】

穏やかな青空のもと、のんびりとした雰囲気の中、開会式は始まりました。九頭竜川や七里壁、弁天桜、勝山大用水、平泉寺など勝山市の歴史やコース内の見所などについて、勝山市の小林学芸員から解説がありました。

勝山市スポーツ少年団の子ども達の元気な完歩宣言の後、いよいよウォーキングが始まりました。



小林学芸員からは、勝山市の歴史やコースの見所について分かりやすく解説していただきました。



参加者を代表して、勝山市スポーツ少年団の子ども達が完歩宣言！  
晴れわたった天気には負けない、元気いっぱい宣言でした。

## 【スタート～チェックポイント1】

スタートしてしばらくは、九頭竜川の堤防を進むコースとなっています。スタート付近の九頭竜川堤防は弁天桜というの桜のトンネルとなっており、秋の日差しをのこぼれ日を浴びながら、弁天桜のトンネルを通り抜けました。



弁天桜を抜け切ると、九頭竜川の堤防から山々が広がる景色が望め、川からの心地よい風を受けながら、歩みを進めていきました。

九頭竜川の堤防に別れを告げ、「農村体感ゾーン」と名打った集落内を通り抜けるコースに入っていました。

「農村体感ゾーン」に入ればしばらくすると、コース脇の田んぼに馬が放牧されていて、参加された皆さんは突然の馬の出迎えに驚いていました。



皆さんが通り抜けている弁天桜は、春にはとても桜が綺麗な、桜の名所の一つです。



ゴールめざしてがんばるぞお〜! ピース!!



弁天桜を抜けた後も、しばらく九頭竜川堤防を進みます。



遠くの山々を眺めながら、気持ちよく歩を進めていきました。





九頭竜川と分かれたのち、集落内を進むと、コース際の田んぼに馬が放牧されていました。参加された皆さんは、突然の馬の出迎えに驚いていました。

まだまだ序盤のチェックポイント1では、皆さんはまだ元気！ハンコを押してもらって、先をめざします。

## 【チェックポイント1～チェックポイント2】

チェックポイント1を出発して、まだしばらく「農村体感ゾーン」の集落内を抜けていきます。

「農村体感ゾーン」を抜けると、続いては集落内を農業用水が流れる「おもむきあるゾーン」へ入っていきます。

このゾーンを流れる農業用水は勝山市の農地を支え、地域の生活用水としても活用されている「勝山大用水」の旧用水です。

この旧用水は約300年前に開削された江戸時代より地域を支える重要な用水で、旧用水沿いの民家には蔵も残っており、大変おもむきある景観を醸し出しています。

この日は天気も良く、気温もどんどん上昇し、チェックポイント2に着いた頃には、気温は20℃を越えており、皆さんの額には汗が光っていました。



農村の雰囲気を感じながら、集落内を通り抜けてきました。



コース際の民家の庭先では、昔ながらの機械を使って、収穫した大豆の脱穀作業が行われていました。





集落内には、勝山大用水(旧用水)が流れ、まだ民家には蔵が残っており、おもむきある雰囲気漂っています。



集落内を流れる農業用水沿いを歩きながら、集落景観を楽しみました。



チェックポイント2は休憩所を兼ねて、飲み物のサービス。のどの渇きを潤して、ひと休み。



県内各地の農業用水や農業用施設の保全活動などを紹介するパネルを展示。

### 【チェックポイント2～勝山大用水(新用水)・七里壁】

若猪野集落は奥越地区有数の園芸団地で、ハウス群の横を通り抜けてゴールをめざしました。

集落を抜けきると、周辺は田んぼが広がる景色へと一変し、稲株が立ち並び田んぼを眺め、徐々に今大会最大の難所「七里壁」が迫ってきました。





チェックポイント2を出発して、奥越地区有数の園芸団地である若猪野集落のハウス群の横を通り抜けました。



遠くに見えるのは、ゴール地点の勝山城。まだまだ先は長いですが、頑張れガンバシ！



集落内を抜け終わるとコースの景色は一変。周辺は田んぼが広がる、見渡しの良いコースとなっていました。

子どもにとっては、コース脇に生えている草も遊びの対象。コース内の色々なものを楽しみながら、ゴールをめざしていました。

### 【勝山大用水(新用水)・七里壁】

参加した皆さんは、まさか七里壁を登るとは思っていなかったようで、先導の者が階段で七里壁を登り始めると、やや驚きと疲れが表情に表れているようでした。

「七里壁」を登ると勝山大用水の新用水が流れています。新用水は、先程集落内を流れていた旧用水の約250年後に開かれた農業用水で、下荒井橋付近の取水口で旧用水と分流し、勝山市の北東部を潤しています。

下から見上げていた感じより、七里壁に登って上から見ると、意外に高低差があり、参加された皆さんも七里壁を形成した自然の力の偉大さに驚きを隠せないようでした。



次に姿を現した農業用水は勝山大用水の新用水。旧用水の北側を流れる新用水は、旧用水が作られてから約250年後に完成した農業用水です。



場所が変わると、農業用水の雰囲気も大きく変わりました。新用水は七里壁の上を流れているのです。





この七里壁を登り切らないと、ゴールにはたどり着けません。足下に気をつけて、ゆっくりと登ってくださいね。



下から見るより、上から見た方が高く感じるもの。意外に高い七里壁に驚きを隠せませんでした。



小さなお子さんは手を繋いで、ベビーカーは担いで七里壁を登りました。



2歳半のお子さんも、無事七里壁を登り切りました。さあ、この先もガンバって！

### 【勝山大用水(新用水)～チェックポイント3】

七里壁を登り切ると、あたりには河岸段丘によって形成された段々田んぼが一面に広がっていました。

コース際の田んぼでは、サトイモの収穫が行われており、普段口にしていても、なかなか見ることはない収穫作業やサトイモの葉の大きさに、皆さんは感心しながら、サトイモ畑の横を通り抜けていきました。

段々田んぼを登り続け、ようやく最後のチェックポイント3にたどり着きましたが、さすがに皆さんの顔にも疲れが見られました。





コースの難所(七里壁)を越えて、周辺には段々田んぼが広がっていました。



コース際のサトイモ畑は収穫作業の真っ最中でした。皆さんはサトイモの葉の大きさや普段あまり見ない収穫作業を見て感心していました。



子どもは、色々なものに興味津々。水路に何かいたのかな？



ようやく最後のチェックポイント3に到着。ハンコは全部揃いましたかぁ～？

### 【チェックポイント3～ゴール】

チェックポイント3を通過して段々田んぼを先へ進むと、コース沿いを流れる小水路にサトイモの皮を剥く芋車が備え付けられていました。

奥越地区でしか見ることができない芋車を、皆さん興味深げに眺め、水の力を利用した先人の知恵に感心しているようでした。

さらに段々田んぼを登り続けていくことになりましたが、コース終盤に続く上り坂はさすがに皆さんきつかったようで、中にはあごの上ってしまった人もいました。

コースの最高点にたどり着くと、後はゴールの下り坂を下るだけで、目前には段々と勝山城が迫ってくるので、ゴール直前には皆さんの足取りも、少し軽くなっているようでした。





コース沿いの水路には芋車が備え付けられていました。  
芋車の中にサトイモを入れて、水路に流れる水の力を利用して、皮を剥きます。



この奥越地区でしか見ることができない芋車を皆さんも興味深く見ていました。



コース終盤は河岸段丘によって形作られた段々田んぼの中を進みます。  
さすがに終盤での上り坂は皆さんきつそうでした。



コースの最高地点を過ぎ、後はゴールの勝山城までは下り坂が続きます。  
皆さんの表情にも少し疲れが見えてきていますが、ガンバって！



勝山城も大きく見えてきました。



ようやくゴールに到着。



ゴールまであと少し。  
少し足取りも軽くなってきたようです。

皆さんお疲れ様でした～！

### 【ゴール地点】

ゴールの受付は勝山城前の広場に設けました。

ゴールでは、完歩証と地元特産品などの参加賞がプレゼントされました。参加賞の中身は、地元加工グループの方が作った炊き込みご飯と米粉パン、大野市(旧和泉村)特産の昇竜まいたけで、盛りだくさんの内容に、皆さん驚き、大変喜ばれました。

また、ゴールの受付のテントの横に、地元勝山市の加工グループの方や農家の方々の協力を得て直売所を設けました。

参加された皆さんも、地元の野菜や加工品の販売に大変喜ばれ、たくさん買われていく人もいました。



ゴール地点の勝山城。  
勝山城をバックにゴールの様子をパチリッ。



ゴール地点ではゴールの受付と直売所を設置しました。



ゴールでは、完歩証と参加賞をプレゼント。  
参加賞は地元の加工品や特産品など、盛りだくさんでした。



直売所では、野菜や加工品を販売しました。  
地元の物の販売に、参加された皆さんにも、大変喜ばれました。



参加された皆さんはゴール地点の思いおもいの場所に座り、参加賞をほおぼりながら、今回の水土里ウォークの感想を語りながら体を休めていました。皆さんの表情は歩ききった充実感と笑顔があふれており、わいわいがやがやと楽しい一時を過ごしていました。



ゴール後には、日陰で参加賞の炊き込みご飯や米粉パンを食べながら、ウォーキングの疲れを癒していました。



米粉パンや炊き込みご飯はとてもおいしく、子ども達もベンチに座りながら、農村の味覚を楽しんでいました。

「楽しかった。来年も参加するよ!」、「毎年このウォーキングを楽しみにしています。」と笑顔でゴール地点をあとにされる参加された皆さんを見送って、私どもが開催する水土里ウォークも定着してきたことを感じる事ができ、これからもより良い大会を開催していこうと思える嬉しい大会となりました。